

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム 水沢コスモス

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人全人会		
事業所名	グループホーム水沢コスモス		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	平成 22 年 3 月 23 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 7 月 21 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370400178&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 22 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2004年、厚生労働省の用語検討会によって、痴呆という呼び名が認知症という呼び名でひとくりにされてしまった。以来、何でもかんでも認知症で解決されてしまう。「もうろく」したり、「加齢」に伴って物忘れが出現したり、動作や思考がゆっくりする症状はあるものの、時間をかければ適切な判断ができる高齢者がいることを我々現場の者はしばしば経験している。時代の流れが大変なスピードで進んでしまい、高齢者には追いつけない現状もある。高齢者を認知症という用語で切り離すのではなく、「痴呆」と「もうろく」や「加齢に伴う緩慢な動作」などと区分けして、より尊厳のある介護として一人ひとりに合った介護を提供したいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、同法人営の「グループホーム」「デイサービス事業所」などと隣接して設置されている。職員の夜間業務や行事・防災を通して、利用者および職員の相互の馴染みの関係が育まれ、協力医療機関との医療連携のバックアップ体制により、利用者・家族、職員全体の安心につながっている。人権尊重とノーマライゼーションの精神を基本とした事業所の「全人的ケア」の下、また男性が6人、女性が3人という利用者状況のなか、男性利用者が女性の利用者を気遣いながら、積極的に配膳や下膳、掃除、新聞整理などに携わるなどアットホームが実感される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 水沢コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティング、毎月の合同介護、年4回のパーティ、運営推進会議で話し合い培っている。	「全人的ケア」を行うという理念を定め、合同会議において、職員一人ひとりについてテーマを設け、理念に沿っているかそれぞれの支援を振り返り、対応等について話し合いを重ねており、実践と意識の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会への参加、佐倉河振興会の会員、佐倉河まつりへの出品など、佐倉河地域の一人として参画し交流している。	恒例の夏祭り、家族介護教室等の参加者たちとの交流、クリスマス会等では保育園児らとも親しくなっている。地域の祭りには見学のみならず、藁縄の飾りなど作品を作り展示するという積極的参加に努め交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護支援センター主催で家族介護者教室を開催したり、保育園児を対象に遊びを通じて触れあいの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の合同会議を運営推進会議に広げ、第三者委員や民生委員、包括支援センター職員の参加により、実践状況を見ていただきご意見をいただいている。奥州市長さんの参加もあった。	より多くの意見を得ようと、会議を毎月開催することで取り組んでいる。委員のこれまでの経験をもとに身近なテーマで活発な意見交換を行う場となっており、そこでの意見をサービス向上に活かしたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は介護認定審査会委員であり、在宅介護支援センターも運営している。通所介護事業では、独居高齢者等への安否確認も含めた配食サービスも受託しており、守秘義務を遵守しながら、市町村への協力は惜しみなく実行している。	生活保護受給、介護認定などの際に、それぞれの担当等と常に連絡を取り合いながら、その連携に努めている。また包括支援センター担当とは、ホームの利用希望者等の情報交換等を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束や虐待は、身体拘束に限るものでない。言葉や薬物による虐待、拘束が含まれていることを、身近な例を示しながら実践的に反復教育を実施している。	向精神薬等の投与による機能低下も身体拘束と考え、そのような抑制も含め連携医療機関の協力のもと排除に尽力している。「身体拘束はしない、起こらない状況づくり」との強い意識と姿勢のもとでケアに当たっている。	虐待を含めた身体拘束の廃止に向け、幅広い視点で、かつ効果的なケアの質の向上に真摯に取り組んでいる状況を運営推進会議を活用し理解を得ることも大切と考える。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束だけを虐待と捉えることのないよう、管理者は自ら学習し、教育し続けなければいけないことを自覚している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に利用されている方もいたし、現在利用中の方もいる。利用に至るまでの過程で、私たちはこの制度について学ぶ機会を得、支援の重要性も理解した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書で説明し、さらに重要事項説明書で理解を深めてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村窓口のほかに、岩手県福祉サービス運営適正化委員会や、法人独自に第三者委員を委嘱していることを、重要事項説明書で説明し、ご意見を反映する機会が複数あることを説明している。認知症による作話で誤解や攻撃を受けることも間々あり困惑することもある。	広報誌により、小まめに利用者の暮らし・姿を家族へお知らせし、また常にメールなどで連絡を取り合うほか、来所の際には必ず管理者等職員が面談する機会を設け、何でも言い合える関係作りを努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、毎月の会議、復命書、企画書、決裁書などで多くの意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	勤務シフトや研修、行事運営などについて話し合われ、現在は地域の行事にどのような形で参画するかについて知恵を出し合っている。また職員のストレス解消と運動不足解消を兼ね、ボウリング大会などを開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	複数回の人事考課により、客観的に自分を評価する機会を設け、職場意欲の向上に努めている。子育て中の職員にとっても継続的に労働できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長期の計画に基づき、理事長、管理者、リーダーを交えての検討を重ね、演題発表までとり着く。全国大会への参加は、総合的な研修として、当会でもっとも重要な位置を占めている。看護学校通学中の職員や介護福祉士を取得した職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護者教室、パーティ、夏祭りなどには必ず情報を発信し、参加を呼びかけ、事業所相互の交流の機会作りを積極的に行っている。法人のホームページにも、最新情報を掲載している。見学も正式な申し込みには応じており、その際には情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みを頂き、利用開始に至る間に、自宅に伺い、本人の口から思いを聞き、本人の生活の実態を把握する機会を必ず作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みを頂き、利用開始に至る間に、自宅に伺い、本人の口から思いを聞き、本人の生活の実態を把握する機会を必ず作っている。その後も、メールなどを使って、現状を分かり合えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みを頂き、担当介護支援専門員や包括支援センター等への問い合わせを必ず行い、他の支援方法を探っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『そうですね、いいですね』と利用者の全てを肯定することが良いことではない。健全な精神活動では、利用者にとりかたがたり、職員が反抗したり、あるいは他の職員がとりかたたりすることが、重要であると教育している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回のパーティ、家族介護者教室、家族参観日、などを通して認知症介護は、家族とともに築いていくものであることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただき、様々な角度から実態を把握している。	遠くの拘りのお茶屋さんまで出かけ買い物をしたり、馴染みの床屋さんやパ-マ屋さんに通ったり、あるいは、馴染みの床屋さんが来訪している。心の安定のため、家族等と相談しながら、馴染みの人・所に出かける機会を多くしたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親密な関係だけが関わり合いではない。険悪な感情の表出も重要な精神活動であることを理解し、関係把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通所介護に切り替えた利用者や、お亡くなりになった時には葬儀で弔辞を読んだり、息子さんや母の日に訪問して下さったり、様々な交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただく。入居後調査票は担当職員が記入し、検討を続けている。	利用者の普段の生活の状況や言動については、職員の判断を加えずにありのままを個別支援記録に記載している。ケアにつながる大切なヒントを得るため、職員の気づきについても、忘れずに記載し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただく。入居後調査票は担当職員が記入し、検討を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後調査票を、担当職員が記入し、決められた手順で見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただく。入居後調査票は担当職員が記入し、検討を続けている。その間、ご家族の訪問の都度、ご意見を聞く機会を設けている。	職員合同会議での毎月のモニタリング、毎日の個別支援記録の状況を重ね見ながら、定期的または随時に見直し、ケアプランを作成している。家族とはメールやファクシミリなどを通して、しっかりと意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の行動、言葉、そのことについての職員の関わり、結果をそれぞれ時系列で記入できる個別の支援記録を作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護ホテル奥州ヒルズココが、グループホーム待機としての機能も持っている。当会には、切れ目の無いなじみの環境を提供できる強みがある。介護ホテル奥州ヒルズココをご利用されていた方にはより親密な支援が可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護ホテル奥州ヒルズココが、グループホーム待機としての機能も持っている。当会には、切れ目の無いなじみの環境を提供できる強みがある。介護ホテル奥州ヒルズココをご利用されていた方にはより親密な支援が可能となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、かかりつけ医を変えてもらったことは無い。緊急時には、連携医療機関である奥州病院の協力をいただいている。	利用者家族の希望のかかりつけ医となっている。容態急変等緊急時は職員が同行するものの、定期受診については、家族同行を基本とする旨、再度説明し確認している。なお家族同行の際には「利用情報票」を事前に医師に送付することにより、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的には、当会の看護師が関わっている。その他に、訪問看護ステーションと契約している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関受診時には、当会から直近の健康状態情報を出している。本人は自分の状態を伝えることができず、ご家族も本人状態を把握していないので、当会が橋渡しを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いきなり重度化するわけではない。段階を踏まえて、ご家族に説明し、ご意見やご意向を頂戴し、記録し、定期の職員会議で共有している。	終末期等への対応については、利用者の状態変化等にあわせて、職員とも会議等で意識を共有するとともに、協力病院との医療連携も図りながら家族等の対応(関係者の意見をまとめる)など、その都度、小まめに相談して、利用者家族の安心につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体温計、血圧計、パルスオキシメーター等を常備し、急変時のデータ採取、その後の連絡手順等トレーニングしている。グループホームでは、応急手当よりも専門スタッフへの速やかな連絡と応援が望まれる。そのためにも、基礎データの採取は重要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難誘導訓練を行っている。同一敷地内に複数施設があり、24時間協力が得られている。	避難訓練は、3回実施している。スプリンクラー設置免除対象施設である。今後は、消防立会いや夜間想定の実施するとともに、地域への避難訓練のお知らせ・参加の声がけをしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前調査票によって、お一人おひとりが、何に傷つくのか、何を誇りとしているのかなどを把握するよう努めている。	利用者一人ひとりについて、一人の人格者として向き合って話し合うことや、町内会長の経験のある方は、家長的な役割を担うなど、「その人らしく」生活できるよう尊厳の意識を持ちながらケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居前調査票によって、お一人おひとりが、どのような希望を持っているのか、どのような納得の仕方をするのかなどを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前調査票によって、お一人おひとりが、どのような生活リズムを持っているのか、どのような過ごし方をしたいのかを把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前調査票によって、行きつけの理美容院を把握している。本人、家族の記憶を頼りにお店を探したこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前調査票によって、お食事の好みを把握している。咀嚼や嚥下機能が低下していても、最後まで食の楽しみを失わないように支援している。	朝食と昼食は冷蔵庫等にあるものを中心に、また夕食は食べたいものを買って出かけて調理している。食事前には歌で嚥下や唾液を促し、人参等の刻みや煮物の味付け、配膳・下膳等には男性も参加し、アットホームな食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、当会の栄養士に相談して、偏らないようにしている。医療機関受診時には、アルブミン値を測定してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいを行行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用は、原則行っていない。ポータブルトイレの持込みは認めていない。	衛生上または人格の尊重の面から、居室にはポータブルトイレは置かないこととしており、夜間のみリハビリパンツを使用している方はいるが、誘導しながら、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食材にはきのこやヨーグルトを欠かさず、また、座らせっ放しにしないなどしている。用に応じて、定例会議の議題にしている。高齢化に伴い、理事長に上申し、看護師による浣腸が必要な方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に、入浴は毎日、午後に行っている。しかし、グループホーム水沢コスモスは開設以来10年を経過し、機械浴に頼らなければならない方もいて、隣接するデイサービスセンター水沢フィランの大きな風呂を借りる方もいる。	清潔の保持、リハビリなどの点から毎日の入浴に努めている。楽しみやリラックス効果のため、花の香りなどの入浴剤を利用したり、季節により、菖蒲湯なども取入れている。入りたがらない人には、違う職員が声がけをして誘導するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前調査票によって、入眠の状況や午睡の習慣を把握している。しかし、長期利用に伴って、認知症の程度が進み、2日寝て、1日活動して、というように24時間単位の生活を失っている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を保管し、薬は一人ひとり写真付の薬ケースに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前調査票によって、生活歴の把握に努めている。その他に、買い物や誕生会の準備、パーティの際のご発声など、様々な役割を担っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	勝手に出て行く方もいる。しかし、今は寒い時期なのでむしろ出たがらず、戸外に連れ出すことに腐心している。	これまで隣接デイサービス利用者と合同での外出が多かったが、利用者・職員の意見等もあり、今後は単独でのドライブなども実施したいとしている。また冬場は、どこへ行きたいかなど、思い巡らし楽しみの気分で過ごす時間を設けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金を渡されても、しまい忘れてしまう。お金が見えなくなると、『盗られた』と騒ぎ、職員を名指して泥棒呼ばわりする。紙のお金がないと不安になる方もいる。飴を買ったり、誕生日のプレゼントを買いに行ったり、ささやかな楽しみごとでの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	100歳近い方もおり、早く(あの世に)連れていってくれとか、医療的なことは何もなくていいとか、ご家族が言い、訪問すらしない方もいる。日々の支援を続けることに虚しさも感じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな天窗から雲の流れや隣家の杉の梢が見えたりしている。キッチンからは、煮炊きの音や匂いが漂ってくる。風呂場は家庭的な大ききで使いこなされたすのこがある。	回廊式に各部屋や食堂などが設けられており、その食堂テーブルで、男性利用者が新聞整理をしたり談笑するなど、利用者が自然に集い時間を過ごしている。また目からの楽しみを得るために行事の写真や手づくりの作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イギリス製の美しいソファで談笑したり、置き畳で密やかに身を隠せる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に一気に完成せずとも、時間を掛けてご家族と本人とでお部屋を作り上げている方もおられる。こちらからどんなに懇願しても、お部屋づくりにまったく興味を持たないご家族もいる。	時々、普段着や洗濯物等を職員と一緒に整理整頓をしながら、居心地の良い部屋づくりをしている。寝室と茶の間を意識して、ベッドとテーブルなどを配置しながら、自宅での生活を再現している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の引っ掛かり等のないよう、スリッパは禁止している。生活の場という観点からは、多少のバリアーがあるほうが良いと思う。国際的には、あえてバリアーのある居住空間作りが主流になっている。		